

「わかる」ことの大切さ(その3)

▶ 2023.9.4(月)

塾から何を教えてもらえるかを知ること

前回までの2回の記事で、
学力は、点数ではなく、“質”が重要であることを理解していただけたでしょうか。

“質の高い学力”をもつことで、子どもは初めて自分の未来を、自分の力で切り開いていけるようになります。

そして、教育とは、子どもにこうした“未来を切り開いていく力”を身につけさせてあげることであるはずで

だから、子どもの教育にとって、一斉指導とか個別指導とかの形態は本質的な意義をもつものではありません。一番大切なことは、子どもがどんな質をもった知識を教えてもらえるのか、ということ

子どもの学力の質は教師の指導技術の関数である

知識を教えることは、誰にもできます。しかし、教える人の能力がそのまま子どもに反映される危険性もあるのです。

だれにでも教えることができる知識、例えば、「十一を11と書く」ことすらも、位取り記数法や0の意味を正しく子どもに教える教育学的な技術が必要なのです。

素人が自分の経験から教えると、少々賢い子どもは“11”と「書けます」が、とても賢い子どもは“101”と書きます。

現職教師が「は・じ・き」の図で“速さ”を教えれば、その生徒は「は・じ・き」だけの薄っぺらな学力を手に入れることしかできません。

また、個別指導で、密度やオームの法則などを、「公式として覚えなさい」式の指導を受ければ平気で「体積を重さでわる」生徒になります。

教材を見るとどんな質をもった学力が形成されるかがわかる

学力の質は見えません。しかし、子どもが学習している教材を見ると、子どもに形成される学力の質を見て取ることができます。

その塾が何を言っているかではなく、その塾が使っている教材を見ると、その塾の指導のコンセプトが“見えます”。

だから、教材を自分の塾で独自に作って教えている塾を選べばまちがいないと思います。

塾の指導コンセプトを教材の中に込めているからです。この教材はその塾で子どもが習得することになる“見える”学力ですから。

【注意】ただ、業者が作った問題集の表紙に自分の塾名を印刷してもらって生徒に”売っている”塾はダメです。

数専ゼミの指導コンセプトは教材の中にある

数専ゼミの指導のなんたるかを知っていただくには、数専ゼミが作った“教材”を見ていただくことが一番手っ取り早い方法です。

「どんな質をもった知識を、どのような方法で教えようとしているのか」については、“教材”を見ていただければ”見えます”。

数専ゼミの実物教材をご覧ください。

数専ゼミが、子ども達に次のような”質”をもった学力を形成しようとしていることがおわかりいただけることと思います。

- ①言葉の”意味”を正確に理解させる。（物事の本質をつかませる指導です。）
- ②法則や計算規則などは、自分で導き出せるようにする。
（なぜ、そのような法則や規則を使う問題が解けるのかを理解してから、その法則や規則を使った問題を解かせる。＝公式を丸暗記して使うような問題の解き方を絶対にさせない。）
- ③問題解法のヒューリスティックス（考えを進める手順）を習得させる。
ヒューリスティックスとは、多くの解法がある問題で、それらの解法を使い回す技術のことです。例えば、数多くある因数分解の公式をどのように使って解くか、という解法についての“知識”です。知識ですから、だれにでも習得できます。
- ④シエーマを駆使しながら複雑でハイレベルな問題を解けるようにする。
シエーマとは、上の速さや密度の説明のところを使ったように、概念の本質を表す図のことで、応用力のツールとなるものです。割合の問題を解くテープ図もシエーマです。ただし、「は・じ・き」の図は速さの本質を何も表していないのでシエーマではありません。むしろ、速さの難しい問題を解くのを阻害するだけの”危険な”図です。

”質の高い数学的能力”を育てる

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp